

北彩都

道北エリア初、視線追跡型VRの導入

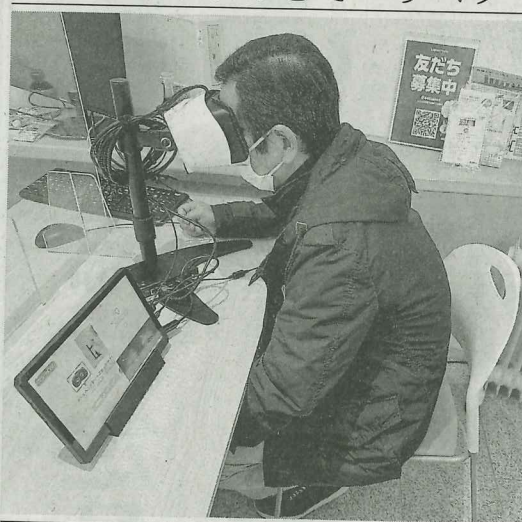
認知症防止の拡充へ

旭川市の北彩都病院(石田裕則理事長・116床)は、高精度な視線追跡技術を搭載したVR機器「認知機能セルフチェッカー」を道北エリアで初導入した。VR空間に表示される課題を「目の動き」のみで回答し、認知機能を評価するもので、健常と認知症発症前の軽度認知障害(MCI)を判別できることから、早期の認知症予防に活用していく。

同機器は、世界で初めての認知機能検査と同様の視線追跡機能を持つVRを発売した企業が、筑波大と産学連携で共同開発した製品。Moca-JやMMSEなど、従来を越える」と推計される。2025年に730万人

同機器は、世界で初めての認知機能検査と同様の視線追跡機能を持つVRを発売した企業が、筑波大と産学連携で共同開発した製品。Moca-JやMMSEなど、従来を越える」と推計される。

MCIの状態では、対応策がない場合、5年後の認知症進行率は約4割にのぼるといわれる。一方、MCIの段階で適切な対策を行えば、一定割合で認知機能を回復できる。同病院では、地域の認知症予防を促したいと同機器に注目。今年2月中旬に導入し、職員など複数人に使用し、オペレーターなど調整を重ねて



シンプルな仕組みだ。検査時は職員が横についてVRを覗き込み、視線だけで検査する

てオペレーションするたため、「機械に苦手意識のある高齢者でも使いやすい」と平間康宣事務局長は説明する。

隣接地に移転新築

25年5月に開院予定

上富良野町立 上富良野町立病院(白田克美院長・39床)は、病院南側に移転新築工事を進めている新病院の開院が当初予定よりも1カ月早い、2025年5月に新病院は、4階建て延べ5500㎡。病床数は、

地域の事情を踏まえて一般病床を39床から30床に減らす一方、介護医療院は32床から40床へと増やす。診療科(内科、外科、救急科)と専門外来(肝臓内科、血液腫瘍内科、循環器内科)は変更なし。1階外来待合は、十勝岳連峰側に大きく開口を

Hospital & Clinic



インドネシア保健省職員が病院を訪れ、医師育成の基本合意書を締結

インドネシア医療参入視野に

現地医師3人受け入れ

札幌ハートセンター

医療法人札幌ハートセンター(藤田勉理事長)は、同法人が運営する東区の札幌心臓血管クリニック(107床)で、インドネシア医療の質向上に貢献していく。2023年8月から受け入れられている。法人を運営する香港アジア医療グループがインドネシアへの

年齢は約20歳と生産年齢人口も多く、経済の急成長が見込まれる。その中で、先進治療を担う専門医が国内で不足しており、特に心臓血管のカテーテル治療技術向上は喫緊の課題でもあったという。同法人は、これまで海外の医療教育活動に積極的に取り組んでおり、外国人医師、医療機関の見学を受け入れてきた実績を持つ。

今回については、インドネシアの基幹医療機関であるハサステイン大医学部、ハラバン・キタ国立心臓血管センターとパートナーシップを締結。同機関を経由して女性1人を含む医師3人を、外国人臨床研修制度を活用して受け入れた。

いずれも30代で同国の循環器内科専門医課程を修了しており、札幌心臓血管クリニックで、主に冠動脈に対するカテーテル治療技術の習得に向けて研さんを積んでいる。外国人臨床研修制度では、医療研修を目的として来日した外国人医師については、臨床研修指導医等の監督の下、医業等

をすることが認められている。同病院では1年以上滞在し、技能、資質を認められた外国人医師のみを治療に参加させるという独自のルールを設ける。医師3人は、今のところ見学がメインだが、今後は指導医の監督下で、習熟度に応じて治療にかかわる予定だ。

外国人医師の受け入れは、アジア圏の心臓血管治療技術向上に貢献するだけでなく、受け入れ側の日本人医師にとってもメリットは大きいという。英語のコミュニケーションが期待されるからだ。今後、受け入れ人数を増やすことについて同病院は「現場に負担がかかり、容易ではない」としながらも「冠動脈以外の末梢血管、心臓弁膜症、不整脈分野であれば、場合によっては受け入れる余地がありそうだ」と分析する。

グループ全体としてはインドネシア保健省と医師育成に協力する基本合意書を2月に締結した。中国の武漢アジア心臓病院、武漢アジア総合病院、香港アジアハートセンターなどと連携しながら、インドネシア進出に向けた協体制を強化していく考え。

院長訪問 札幌中央整形外科クリニック 亀田 和利院長

豊平区の福住整形外科クリニックの分院として5月5日にオープンした。本院では開院して以来「ほっと笑顔で安心できる医療」をモットーに、患者一人一人に合った治療とリハビリを提供。一般の整形外科のみならず、首・肩こり、スポーツ障害、痛風、ばね指など日常生活で起こりやすい悩みにも、ていねいに対応してきた。その積み重ねによって外来は常に予約で埋まるようになり、新規患者を受け入れられなくなったため分院開設に踏み切った。

札幌駅と大通公園をつなぐ地下歩行空間に直結したビル内に開

「ほっと笑顔で安心できる」で、患者数増やし分院開設

設。オフィス街という立地から、仕事が忙しく手術や通院の難しい患者の心ぎ治療には、PRP療法などの再生医療を提案する。保険診療のため高額ではあるものの、1度の術で1〜2年は痛みが軽減されるため希望する患者は多いという。



質の高い医療には「社会人基礎力、リーダーシップ、マネジメント力も求められる」と、ド

開業 (か) リラバ ニック(種) 市手稲区 11オ